

コラム 西洋古代史の泉 2

Fondation Hardt について

南 川 高 志

2009年9月、私はスイス、ジュネーブ近郊にある古典古代学研究施設 Fondation Hardt（以下、FH と略記）を訪問する機会を得た。FH は、わが国の学界でも西洋古典文学や古代哲学の研究者にはよく知られているかもしれないが、歴史研究者にはあまり知られていないように思われるので、簡単に紹介したい。

私が FH の名を聞いたのは、すでに 30 歳を過ぎてからであった。その時は、施設ではなく、研究集会の成果をシリーズで刊行している団体と認識していた。そして、このシリーズ *Entretiens sur l'Antiquité classique* の 1 冊である *Opposition et résistances à l'Empire d'Auguste à Trajan* (*Entretiens sur l'Antiquité classique*, tome XXXIII, Genève, 1987) の書評を執筆している（『西洋古典学研究』38, 1990 年掲載）。

この書評刊行後しばらくして、FH に滞在された経験のある日本人研究者から、ぜひ FH を訪問するように勧められたが、機会なく 15 年以上過ぎてしまった。2007 年 8 月、大妻女子大学教授の葛西康德先生が、日本の大型研究プロジェクト「教養教育の再構築」の企画として、FH で「教養の“Diffusion”」と題する研究集会を開催された（このプロジェクトやジュネーブでの研究集会については、以下のホームページを参照されたい <http://www.isc.niigata-u.ac.jp/~globalstrategy/generaledu.htm>）。葛西先生からこれを伺って、私も一度訪ねてみようかと考えるようになり、今回それをようやく実現することができたのである。

FH はジュネーブの近郊、Vandœuvres にある。ジュネーブの中央駅たるコルナヴァン駅からタクシーで 15 分程の閑静な住宅街の中で、バスでも行け、安くて済むが、初めてジュネーブを訪ねた日本人研究者には、バスを途中乗り換えして行くのはやや難しく、時間もかかるので、タクシー利用がよからう。

この組織は 1949 年にドイツ人貴族 Kurd von Hardt (1889～1958 年) によって設立され、現在はスイス連邦政府をはじめ公的機関や私的な後援者の援助を受けつつ、専門委員会によって運営されており、世界的に著名な学者たちのモニターを受けている。現在の所長は古代ギリシア考古学、古代ギリシア史の専門家 Pierre Ducrey 教授である。所長を支えて研究施設・組織を切り盛りするのが学術秘書 Monica Brunner さんで、ほかに図書室員 Alain-Christian Hernández さんと女性職員 Heidi Dal Lago さんが常勤で働いている。

FH の敷地は、18 世紀の貴族の所領だったところで、瀟灑な 2 階建ての邸宅、い

わゆるマナー・ハウスが本棟で、別棟の図書室やオランジュリー、温室などからなる。とくにオランジュリーは2008年改装され、集会ができる美しい空間になった。私が、訪問した9月には、森の木立に葉が茂っていて眺望がきかなかったが、アランさんの話では、葉が落ちる季節には、本棟の2階テラスからモンブランが見えるそうである。

別棟の図書室は、主要部分は1階だけの、しかし天井の高い建物で、研究集会も開ける明るく広々としたスペースである。1階部分にはギリシア語テキストやコメンタリー、作品の研究書などが置かれ、高さは2階に相当する1階上部の棚にラテン文学系の書物が収められていて、高いところに置かれた本は、室外の階段を上った通路から手に取ることができる。本棟の地階にも図書室があって、ギリシア・ローマ史や考古学、法律などの研究書が並び、学術雑誌の書庫もこの地階にある。歴史学や考古学関係の書物のそろいは、イギリスやドイツの伝統ある大学の図書室などを知る目からすると豊かとはいえないかもしれないが、文学や哲学関係の勉強をするためのテキストや研究書は十分あり、なによりも落ち着いて勉強できる環境がFHにはある。ここでは、大学の図書室のように学生がざわざわと出入りすることもなく、滞在するごくわずかな数の研究者だけで本も勉強机も独占的に使用できるのである。また、FHに滞在する研究者には、ジュネーブ市図書館やジュネーブ大学古典学研究図書館にもアクセスできることになっている。もちろんFHの書架にある書物は館内のパソコンで検索できるし、外部からもアクセス可能である（www.fondationhardt.ch/bibliotheque 参照）。

FHの優れた点は、滞在して研究集会に出席したり図書室で研究に励んだりすることを可能にする宿泊施設が、10室用意されていることである。2005年までに改装され、インターネット接続もできる部屋を最短2週間から最長2ヶ月間まで利用できる。2009年現在の宿泊費用は36歳以上の研究者で1日70スイス・フラン、35歳までで1日50スイス・フランとなっている。ホテル代金が非常に高いジュネーブではたいへんありがたい料金である。しかも、これはたいへんおいしい食事込の料金とのこと。また、FHは若手研究者のために、2週間から2ヶ月までの滞在・研究に相当する奨学制度も用意している。

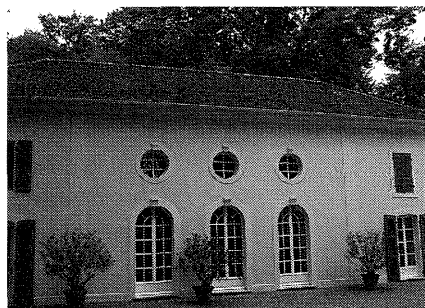
もちろん食事は館内で調理され、提供される。私は、今回の訪問では、日程上FHに宿泊はしなかったが、滞在して研究に励むドイツ、イタリアなどからの学者5人とともに食事をする機会を得た。イギリス、ケンブリッジ大学学寮滞在時のディナーを思い出すような銅鑼が鳴って、皆が昼食の丸テーブルに集まった。たいへんおいしいランチをごちそうになり、所長や秘書さんの御厚意に感謝している。ただ、片言の英語を使うに過ぎない私には、落ち着いて食べるのが難しい世界でもあった。ジュネーブという空間のせいでもあるが、FHの中では全くのヨーロッパ

水準で動いており、ランチのテーブルでの会話も、参加者がそれぞれの母語であるドイツ語、フランス語、イタリア語で話して理解し合える状況にある。私が参加したために、この日のランチでの会話は英語がかなり使われ、特にドイツ人研究者がイタリア人研究者の話を通訳してくれたおかげで、私もある程度会話に参加できたが、豊かな滞在時間を過ごすためには、英語以外に、特にフランス語かイタリア語が自由に使えることが望ましい。もっとも、スタッフは皆さん親切で、英語を少し話せば目的は達せられよう。若い方々は臆せず訪ねて、勉強してきてほしい。

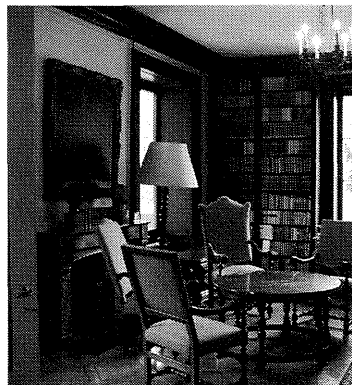
2つの図書室はアランさんが、本棟の各部屋は秘書のモニカさんが親切に案内してくれた。モニカさんが本棟の書斎で見せてくれた訪問者のサイン帳。その最初の記載者は、20世紀最高のヨーロッパ文学者といってよいローベルト・クルツィウス（1886～1956年 わが国でも大冊『ヨーロッパ文学とラテン中世』などが訳されている）である。そのほか、そうそうたる古典学者の名があった。研究集会の成果報告書である *Entretiens* を検討することは大事だが、それを生み出している FH とその活動を支える人々や周辺環境に思いをいたすことも、わが国の学界の発展には大事なように感じる。日本の西洋古典学や西洋古代史は、そうした水準に十分達しているのだから。



(写真) 本棟正面玄関



(写真) 図書室棟



(写真) 本棟2階書斎

Fondation Hardt の住所、連絡先、ホームページは以下の通り。

Fondation Hardt pour l'étude de l'Antiquité classique

Chemin Vert 2, 1253 Vandœuvres, Suisse

ホームページ www.fondationhardt.ch

電子メール administration@fondationhardt.ch